

# Wish

# 34

2011年8月号

unicef 

世界の子どもたちと東北の子どもたちをつなぐ  
**Tegami Project**  
 2011年3月11日以降、世界中の子どもたちから、日本の子どもたちに届いた、応援の手紙。その手紙を、日本の子どもたちに届けたい。そして、日本の子どもたちから、こんどは世界の子どもたちへ、お返事を届けたい。Tegami Projectは、そんな想いをこめたプロジェクトです。世界中の子どもたちと日本の子どもたちをあたたかいTegamiでやさしくつないでいく取り組みがスタートしました。

てがみが届きました。



## 東日本大震災写真展

「ユニセフ入門講座」

ユニセフセタネットワークセミナー

今号の兵庫県

ユニセフ協会

活動ファイル

わたしもボランティア



鯉のぼりが泳ぐ陸前高田市の下矢作保育園で子どもたちと遊ぶアグネス大使



神戸からみんなの力。できる人ができることを。



# 東日本大震災写真展

5月31日(火)～6月7日(火) 写真展I 「子どもにやさしい空間」  
7月16日(土)～7月30日(土) 写真展II 「東日本大震災報告」

会場 コープこうべ生活文化センター

兵庫県ユニセフ協会ではふたつの写真展を開催し、被災地の実情を伝えました。  
多くの方にご来場いただき、被災地の子どもたちの様子が伝わったのではないかと思います。  
被災地では子どもたちの屈託のない笑顔が、復興に向けて頑張る人たちの希望の灯りとなっています。  
そんな希望の灯りを頼りに、復興に向けて前を向く方々のお話を、展示された写真を交えながらご紹介します。



© 日本ユニセフ協会 / K.Goto



## ユニセフ子ども遠足バスが走りました 岩手県陸前高田市にて

岩手県ユニセフ協会 事務局長 藤原 綾子さん

ゴールデンウィークに「子ども遠足バス」に被災地の沿岸10カ所の約9000人の子どもの保護者が参加しました。

5月3日 西和賀町のカタクリ群生地に行きました。残雪をぬけるとカタクリ、福寿草、二輪草の花が咲いていました。町あげでの歓迎でした。山菜の天ぷらをしたり学生ボランティアと遊んだりして、子どもたちの笑顔が見られました。

5月8日 花巻宮沢賢治童話村に行きました。そこでは花巻友の会の皆さんが歌で歓迎してくれました。

6月5日 館が森アーク牧場に行きました。子どもたちは草原いっぱい走り回り、小さな虫を見つけて喜んだり、自然にとっぴりつかったり大喜びでした。

6月6日 「盛岡チャグチャグ祭り」を見た後、いわて馬つこパークへ行き、小動物と遊びました。山田町や宮古市の子どもたち200人を超える参加がありました。

岩手県ユニセフ協会は、多くのボランティアと一緒に、緊急支援の仕分けや学校再開のための清掃、子どもの心のケアなどに取り組みました。そして、プレイセラピー講習会へも参加しました。

私たちは、盛岡から1000～1500mの被災地までには支援に行けないけれど、できることには参加したいという思いで活動に参加しています。

(岩手県ユニセフ協会ユースより)

## 力になり続けたい 宮城県石巻市にて

私の勤務する会社の本社工場は宮城県石巻市にあります。今回の震災では少なからず被害を受けました。ただ、いなことに本社は大きな損壊を免れ、また社員も全員が無事でした。一カ月ほど休業しましたが、現在は操業も再開しています。石巻の被災状況を考える、とても幸運だったと思います。

しかしながら、社員の大半は家屋の全壊、半壊、床上浸水などの被害を受けました。家族や親類を津波で亡くした者もいました。そんな状況の中で勤務を続けてくれていることに頭が下がるとともに、何か力になれることはないかとずっと考えていました。

この連休中に多くの親族やボランティアが東北に向かい、東北自動車道は大きな渋滞が予想されると聞いていたので、2日に仕事を終えて大阪を

発ちました。3日の早暁、明るくなるとともに見えてきた石巻は、私がついている町とは全く別物でした。本社のある鹿又辺りは津波の被害もそれほど大きくなく町の状態を維持していました。倉庫があった八幡町やその西に位置する女川町などは町の様子が変わったというのではなく、町が無くなっていました。

石巻を発つ5日に地元のダイビングショップを訪れました。避難所への支援物資配布を継続していると聞いたので、持参した野菜、ジュースや洗濯道具を託しました。支援物資に関しては当初必要とされた食糧(パンやおにぎり)、毛布、冬用衣類などは場所によっては余っている状態で物資支援の必要性が薄れているように私も誤解していました。しかし、実際現地では季節の移り変わり

や避難期間の長期化とともに望まれる物資は変化し、継続的に支援が必要であることがわかりました。これからは栄養のとれる食べ物、夏用衣類、女性の化粧品用品などが欲しいのだと聞きました。

今回の大震災では多くの人が家屋とともに働く場所も失いました。石巻市も例外ではありません。漁業、農業はもちろんのこと、多くの中小企業が廃業に追い込まれました。幸いにも、私の会社は生き残りました。社員が働ける場所を失わずに済んだことが本当によかったです。

そして、石巻に所在し、生かされた会社の使命として、石巻、東北のために少しでも力になり続けたいと思っています。

(高岡博明)



© 日本ユニセフ協会

1



© 日本ユニセフ協会

2



© 日本ユニセフ協会

3

- 1 積み木遊びは楽しいね
- 2 検診を受け得る松野結衣ちゃん
- 3 岩手高校総体 応援するよ





## ユニセフ学校キャラバン

5月24日(火)～25日(水)

(公財)日本ユニセフ協会職員が副知事、教育長を表敬訪問し、メッセージの交換の後、ユニセフへ支援を感謝するとともに一層の理解と協力をお願いしました。

このキャラバンは、国際児童年の1979年より始まり、兵庫県訪問は今回で6回目となります。

### ユニセフ研修会

5月24日(火)

午後からは、教職員40人を対象に研修会が行われました。

前半、世界の子どもたちがおかれている現状、ユニセフの歩み、ユニセフの活動(保健、栄養、水と衛生、教育、保護、緊急支援、エイズ)について講義がありました。

後半は「子どもの権利条約」について、参加者によるワークシヨップ形式で、「自分の町の優しいところ」を4～5人のグループに分かれ話し合いました。

今回の研修を生かしてそれぞれの学校現場で工夫を凝らした国際教育が展開できると思いました。

### 会下山小学校

#### 渚中学校を訪問

5月25日(水)

午前は会下山小学校の4～6年生、計315人と保護者40人余りを対象に学習会が行われました。世界の子どもの現在の現状とユニセフ活動についての話から、実際にネパールで使われている水汲み用のかめ(満杯で約15kgの重さになる)を運んだ感想を交えながら楽しい雰囲気が進められました。最後に「世界の子どもたちのことを他の学校の人にも教えてください」という言葉がありました。

午後は渚中学校。全校生369人を

対象に行いました。始めにDVDを見ました。毎日水汲みのために時間を取られ、学校に行けない子どもたちのこと、汚れた水や不衛生な環境のために下痢や脱水症状で幼い命が失われている現実、紛争地域では子どもたちまでが兵士として駆り出され、その後更生する苦しい映像を真剣に見ていました。「5歳になる前に命を失う子どもたちの割合が、3秒に1人」という事実には驚いていました。また、マラリア予防のための蚊帳に入る体験学習、東日本大震災の中学生ボランティアの話にも、熱心に聞き入る姿が印象的でした。中学生のみさんの心の中にきつと何かが届いたことだろうと思いました。(樋口陽子)

#### 生徒たちの感想

アフリカの方の暮らしを映像などで知って、わたしは、車や電車そしてバスそして何より水道の設備が整っていることがとてもありがたくなりました。わたしは、この経験を生かして、将来は学者の夢と同時に、貧しい国のことをたくさんの人に伝えていきます。(小学生)

きれいな水や食べ物、薬が手に入らずに命を失う子どもが多いと聞き、3秒に1人…死んでいるそうです。とても怖いことが今、書いているうちにも死んでいる方がいます。その人たちの分も、自分は精いっぱい生きていきたいです。地震や洪水にあった国にも自分たちでできることを頑張りたいです。(中学生)



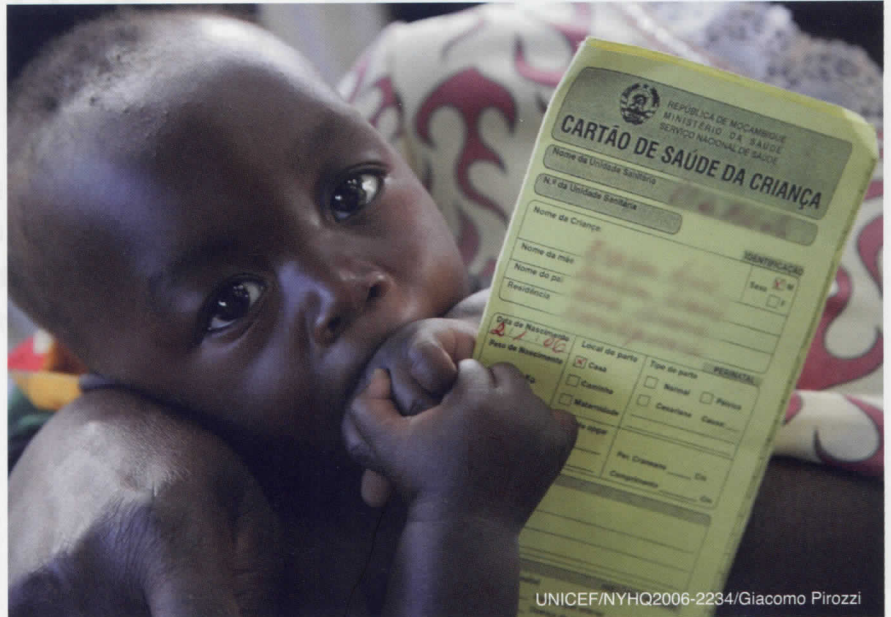
# 「ユニセフ入門講座」を開催

## 知ること、そして伝えること

ユニセフ活動にあたってはボランティアの力がそのままの推進力になります。時間的には少ししか関わりを持つことができない人でもそれぞれの場でユニセフへの関心を広める知識をもって頂けたらと願い、毎年入門講座をもっています。実は、講師となる学習チーム会のメンバーにとっても振り返り学習の有効な機会になっています。

1回目の講座は、4月23日「ユニセフを知るための10のキーワード」。名前の由来、歴史、ユニセフの支援基準、5歳未満の子どもの年間死亡数など頭に浮かんできてほしいことを取り上げました。

2回目の5月21日は「ユニセフの歴史」。「ユニセフ紹介」では日本への支援が終わる1964年までしかできませんでした。東日本大震災で50年ぶりに緊急支援を受けることになった時であり、「日本とユニセフの協力関係」に重点をおいて振り返られる組み



UNICEF/NYHQ2006-2234/Giacomo Pirozzi

保健カードを持つ子どもとその母親。モザンビークのこの小さな村には保健クリニックが出張してきてくれます。

立てをしました。

3回目の6月25日は「栄養」。世界の5歳未満児死亡数は年間810万人、年々減少しているとはいえ死亡原因の53%を占める栄養不良問題を解決することは、ユニセフの最重要課題です。途上国の母と子の食糧不足、栄養不足を解決する柱となっている施策の①経口補水塩②微量栄養素③

奇跡の食品プランピー・ナッツ④コミュニティ保健員などについて説明し、理解を深めて頂けたと思っています。

今後知りたいことがあればご要望をお寄せください。

戸崎文子

※注1 出生時から満5歳に達する日までに死亡する確率。出生1000人あたりの死亡数です。

※注2 コミュニティを中心とした栄養プログラムをすすめる人。

1



経口補水塩

下痢などによる脱水症から子どもたちの命を守ります。食塩とブドウ糖を混合したもので、安全な水に溶かして飲むことで水の25倍の速さで体に水分が吸収されます。

2



微量栄養素パウダー

ビタミンやミネラルの欠乏は、子どもたちの成長に深刻な影響を及ぼし、時には障害を引き起こすこともあります。子どもの成長に必要なビタミンやミネラルが含まれたこのパウダーは、これらの栄養摂取が難しい緊急時においても食物や飲料に混ぜて摂取することができます。

3



プランピー・ナッツ

緊急支援や栄養不良児の栄養改善に使われます。調理の必要も水に溶く必要もなく、いつでもどこでも、袋から出してすぐに食べられる栄養たっぷりのミラクル・フードです。



# ユニセフ七夕 ネットワークセミナー

7月2日(土)、岡山にて7地域合同研修会を開催。  
「災害を通し、今の私たちにできること」をテーマに、  
様々な事例を通して、一人ひとりが改めて  
ユニセフ活動について考える時間となりました。  
また、年に一度の交流の場、  
これからも続けていきたいものです。

## 私にできること

スマトラ沖地震からユニセフの支援  
まで国際交流、貧困地域の家庭視察に  
ついて報告がありました。小学6年生は、  
週1回2時間の補習授業があり、中学  
校への進学时「足きり制度」があるとい  
う。インドネシアでも格差社会が広がっ  
ている事実を知りました。

災害のワークシヨップでは、日本に起  
こった未曾有の災害東日本大震災につい  
て考え、大震災の影響について学習討論  
をしました。しかし、途上国での災害と  
日本では生活レベルの差が大きすぎて比  
べることができません。

私たちにできることは、「忘れないこ  
と」「支援を続けること」「受け入れるこ

と」「知ること」「活動に行動すること」  
が大切だと思いました。(十亀仁恵)

## 1500円の価値

今回初めて合同セミナーに参加しま  
した。各地から多くの方が参加してお  
られ活発に意見も出され、いろいろな考え  
にふれることができました。

インドネシアスタディツアー報告では  
中学校の受け入れ人数に限りがあるた  
め足きりテストが行なわれることを知り  
ました。小6は補習までやっていると聞い  
た時、優秀な子は学費が免除してもら  
えるから…と思ったら、そのようなレ  
ベルの話ではなく、中学校に入れる人数に限  
りがある、全員が入れる余裕がないとい  
うことでした。自分の考えの甘さがわか  
りました。

次は、東日本大震災についてのワーク  
シヨップでした。被災した子どもの体操  
服をそろえてやるのに1枚1500円と  
のこと。Build Back Better  
とはいうけれど、この1500円で途上  
国の子どもたちの命が何人救えるだろう  
か…と迷ってしまいました。確かに日本  
の子どもたちにとって「おそろい」の体操  
服はあって当たり前のものですが、国の  
違いでこんなにも¥1500の使い方の  
違いがあることを認識せざるを得ません  
でした。復旧と復興は違うと言われま  
すが、あれからずっと私の中で「1500  
円の価値」についての思いが離れず、考え  
させられている毎日です。(田中昌美)

## Hyogo unicef Today

# 今号の兵庫県 ユニセフ協会

6月には、啓明学院中学校からトライやるウィークの  
生徒さんが活動に参加しました。



私は、この集まったお金によって何人もの子  
どもたちの命が助かることに感動しました。  
また、私たちは本当に恵まれているなあ  
と思った。また、子どもたちが元気に楽しく生  
活できる事を願っている。(泉佑紀さん)

私達は、蛇口をちょいちょいとひねれば簡単  
にきれいな水を得られるが、そんな私たちに  
とって当たり前なことが世界では当たり前  
ではないことに衝撃を受けた。また、きれいな  
水が簡単に得られないことから沢山の人が  
亡くなったり、学校に行けなかったりする子  
どもたちが多く存在することに驚きを感じ  
ました。(田中翔子さん)

ユニセフでは募金だけではなく、学校へ行っ  
て、DVDを使って水の大切さや5歳になるま  
でに死んでしまう子どもたちがいることを教  
えていることを知りました。そして、その国に  
行って現地の子どもたちにいろいろな物資  
を送って子どもたちを助けていることも知り  
ました。(西川大樹さん)



神戸から愛と元気を

### 兵庫県ユニセフ協会として 神戸まつりパレードに参加

5月15日(日)、東日本大震災の被災地への支援、エールを贈ろうと市民の力を結集して開催されました。



### 世界の子どもたちへ ポリオワクチンを!!

6月19日(日)、「ポリオをなくそう チャリティコンサート 世界をつなぐ」というテーマのもと、コンサートが開催されました。これは国際ロータリーがポリオ撲滅のために進めている事業で、今回は国際ロータリー第2680地区の主催で行われました。会場となった兵庫県公館は、たくさんの来場者とみなさんの笑顔があふれていました。



### 神戸市でカード頒布

7月21日(木)22日(金)の2日間、神戸市職員労働組合のみなさんにご協力いただき「ユニセフグッズ展示頒布&被災地支援写真展」を開催。初日は矢田神戸市長もご出席いただき、ユニセフグッズもお買い求めいただくなど、昼休みを利用して多くの職員のみなさんからたくさんのご協力をいただきました。



オープニングのテープカット

# わたしも ボランティア

丸谷裕子さん



私とボランティアとの出会いは、自宅に届いたダイレクトメールでした。

正直、あまり関心は無く何をしてもなく過ごしていましたが、数年前、友人から届いた年賀状の最後に「ボランティアをしてみませんか」という一文が添えられていたことを思い出しました。孫の手も離れ何か始めようかと思っていたときでしたので、その一文がスーと入ってきました。後日友人から話を聞かせてもらうと、それがユニセフのボランティアでした。

初めて参加させてもらったのは「タンザ

ニア報告会」でした。報告されるみなさんの表情が生き生きとし、本当に素晴らしい体験をされたんだと思いました。私も素晴らしい体験が出来るかしらと思いつつ、その日にボランティア登録を済ませました。

それから色々な活動に参加し、人と人との出会いやつながりの大切さを経験させていただきました。これからの一つ一つの出会いを大切に、そしてそのつながりが世界の子どもたちとつながっている事を信じ、兵庫県ユニセフ協会の方々と共に活動を続けていきたいと思つています。

### あなたもボランティア

ユニセフって言葉は知っているけれど、いったいどんな活動をしているんだろう。世界の子どもたちのために、私にできることはなんだろう。そんなことを思ったら、まずはご連絡ください。「できる人が できることを できる時に」がモットーです。お気軽にお問い合わせください。(連絡先:事務局078-435-1605)

■ユニセフ学生グループ『ユニーズ』は、フレッシュな発想、感覚を存分に発揮できる場所。そして出会いと旅立ちの場。先日、初代メンバーの一人から、「7月から在コスタリカ日本大使館で働くことになりました」との連絡がありました。彼女の夢はこれからも続いていくと思いますが、その軌跡の一つにユニセフがあることが、とてもうれしく、有難く思います。こうやって人と人、世界がつながっていくんですね。

■募金先はこちら

通信欄	振替口座	手数料
通常募金	00190-5-K1-280	免除
東日本大震災	00160-2-K1-280	ご負担下さい
中東・北アフリカ	00190-5-K1-280	免除
ハイチ地震	00190-5-K1-280	免除
パキスタン	00190-5-K1-280	免除
アフガニスタン	00190-5-K1-280	免除
緊急復興	00190-5-K1-280	免除
アフリカ	00190-5-K1-280	免除
自然災害	00190-5-K1-280	免除
人道危機	00190-5-K1-280	免除

\*共通口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

世界の子どもたちのために

# Wish

Vol.34号  
(2011年8月号)

ユニセフ兵庫ニュース  
2011年(平成23年)8月発行

発行:兵庫県ユニセフ協会

住所:〒658-0081  
神戸市東灘区田中町5-3-18  
コープこうべ生活文化センター4F

電話:078-435-1605

FAX:078-451-9830

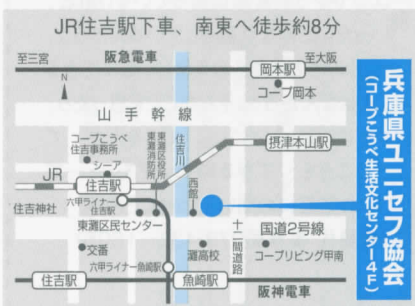
(お問い合わせは平日の10:00~16:00)

●最新の情報はホームページで

<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

兵庫県ユニセフ協会  検索

●兵庫県ユニセフ協会への案内図



8/9(火)~8/26(金)

10:00~18:00

ユニセフパネル展  
「タンザニアの  
栄養プログラム」  
子どもたちの成長のために栄養を  
コープこうべ生活文化センター  
1階展示室  
2009年10月、タンザニアを  
視察。日本からの支援で、タン  
ザニア・ザンジバルでは、重度の  
急性栄養不良の子どものための  
プログラムが導入されま  
した。子どもたちの様子、支援  
の内容等々を展示します。  
主催:兵庫県ユニセフ協会



## お知らせ

Event Information

8/27(土)

①13:00~ ②15:00~

映画「地球のステージ  
ありがとうの物語」  
コープこうべ生活文化センター  
2階ホール  
世界各地で続く紛争、貧困。  
運命に翻弄されながら懸命に  
生きる子どもたち。子どもた  
ちの笑顔から、生きることに素  
晴らしさ、いのちの大切さを考  
えてみませんか。  
参加費:無料  
(※できるだけ事前にお申込ください。)  
主催:兵庫県ユニセフ協会

9/11(日)

14:00~16:30

トーク&ジエベンペ  
「ケニア・キベラスラム  
の子どもたち」  
コープこうべ生活文化センター  
2階ホール  
講演:早川千晶  
演奏:大西匡哉、近藤ヒロミ、山北紀彦  
参加費:無料(資料代500円)

### トーク&ジエベンペ ケニア・キベラスラムの 子どもたち

〜すべてのいのちはつながる〜

東アフリカ最大のスラム・キベラ地区。その中にあり、マダモスラムに暮らす子どもたち。懸命に生きている子どもたち。その苦闘の物語「いのち」は、聞いて寄せてみませんか? 早川さんの講話の後は、本職の音楽パフォーマンスで、ケニアの子どもたちから日本へメッセージを届けていきます。

📅: 2011年9月11日(日) 14:00~16:30 (予定)  
📍: コープこうべ生活文化センター 2階ホール

- ★講演 早川千晶さん '66年福岡生まれ。世界放浪の経験。ケニアに定住。現在は横浜。元テレビ朝日キャスター。音楽人としても活動中。子どもたちのためのマダモスラムの運営に携わる。
- ★演奏 大西匡哉さん、近藤ヒロミさん、山北紀彦さん
- ★定員 100名 ★入場無料(資料代500円頂戴します)
- ★会場の手配が完了しました。下記まで事前にお申し込ください。

お申込・お問い合わせ ☎ 兵庫県ユニセフ協会  
TEL: 078-435-1605(平日10:00~16:00) FAX: 078-451-9830

主催 兵庫県ユニセフ協会 共催 コープこうべ生活文化センター同担委員会



出展参加します

8/22(月)  
コープこうべ第2地区  
平和のつどい

8/25(木)  
コープこうべ大阪北地区  
ピースアクション

10/1(土)  
コープこうべ生活文化センター  
地球のステージ6

10/15(土)~16(日)  
兵庫県の祭典  
ふれあいの祭典

10/22(土)~23(日)  
コープこうべ  
きょうどう学苑祭